

【教員氏名】

松端 克文  
 研究室:聖アンデレ館 9階 928 号室  
 メールアドレス:katufumi@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

2000年の社会福祉法の改正により、同法第1条において社会福祉の目的として地域福祉を推進することが明記されるなど、地域福祉は今日の社会福祉を理解し、実践していくうえで、最も重要な領域として位置づけられている。しかし「地域福祉」という考え方はイギリスやアメリカなどの影響を受けつつも、極めて日本的な概念である。本講では、こうした地域福祉の理念や理論、歴史や実践状況、あるいは推進方法(地域福祉の方法論)などについて、マクロ的には国際的な状況や日本の社会福祉制度改革の動向をおさえつつ、メゾ・ミクロ的には各自治体・地域における実践をふまえて概観することで、地域福祉の全体像や特徴、さらには今日的意義や役割に関する理解を深めることを目標に講義をすすめる。この講義では、特に地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を中心に講義をすすめる。

【学習目標】

- ①地域福祉の基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。)について理解する。
- ②地域福祉の主体と対象について理解する。
- ③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
- ④地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む。)の意義と方法及びその実際について理解する。
- ⑤地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。)について理解する。

【講義計画】

- 第1回:地域福祉とは—地域福祉の基本的な考え方  
 地域福祉の主体と対象
- 第2回:地域福祉理念、概念と範囲、役割と意義
- 第3回:地域福祉理論の分類① 構造的な概念と機能的な概念
- 第4回:地域福祉理論の分類② 4つの志向軸による分類  
 (1)コミュニティ重視志向の地域福祉論
- 第5回:(2)在宅福祉志向の地域福祉論
- 第6回:(3)政策制度志向の地域福祉論および自治型地域福祉論  
 (4)住民の主体形成と参加志向の地域福祉論
- 第7回:地域福祉の構成要素
- 第8回:現代社会におけるコミュニティの変容とコミュニティの分析枠組み
- 第9回:地域福祉調査法
- 第10回:地域福祉推進の方法 ①コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション
- 第11回:地域福祉推進の方法 ②コミュニティソーシャルワーク
- 第12回:コミュニティづくりと福祉コミュニティ
- 第13回:地域福祉の人材の構成およびその動員方法・財源の構成とその調達方法
- 第14回:地域福祉のサービス提供組織とその運営方法・連携・協働・ネットワーク
- 地域福祉推進の組織、団体、専門職
- 第15回:試験およびまとめ  
 —地域福祉をめぐる政策状況と課題および地域福祉実践の可能性—

【成績評価の方法】

試験評価:80% レポート:0% 出席:20%  
 毎回、出席をとりまします。  
 リアクション・ペーパーにはしっかり記入すること。  
 試験レポート出席  
 コメント

【使用テキスト】

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉(第5版)』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時、紹介します。

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

シラバスを確認の上、予習しておいてください。

【その他備考(担当教員用)】

毎回、レジュメを配布します。

【備考(管理者用)】

(旧:地域福祉論)02~08SW 生読替